

敦賀発電所 2 号機の原子炉手動停止について
(漏えい箇所の点検調査状況)

このことについて、日本原子力発電株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

敦賀発電所 2 号機（加圧水型軽水炉；定格出力 116.0万kW）は、定格出力運転中のところ、7月12日午前 6 時05分、原子炉格納容器内の C、D ループ室前通路の火災報知器が発報するとともに、格納容器内サンプル水位上昇率高警報の発信、1 次冷却水充てん流量の増加や格納容器内じんあいモニタ等の上昇が確認されたことから、格納容器内で 1 次冷却水が漏洩しているものと判断し、午前 6 時24分から手動で出力を降下、午前 6 時48分電気出力 8.1万 kWで原子炉を緊急手動停止した。

なお、本事象に伴う周辺環境への放射能の影響はない。

漏えい状況調査として、18時45分から格納容器内の立入調査を行った結果、C ループ室通路側に設置された化学体積制御系再生熱交換器 1 台（全 3 台）の抽出側配管部で漏えいが確認された。このため、抽出系統配管の隔離操作（弁の閉止操作）を20時16分に完了し、20時29分漏えい停止を確認した。

また、格納容器サンプルおよび床面に貯まっている漏えい水については、22 時00分より液体廃棄物処理系への移送作業を継続的に実施している（13日 10 時時点で約 20.4m³を移送）。

（平成11年 7 月 12 日 9 時15分、16時30分、18時15分、20時、21時、13日 02 時 記者発表済）

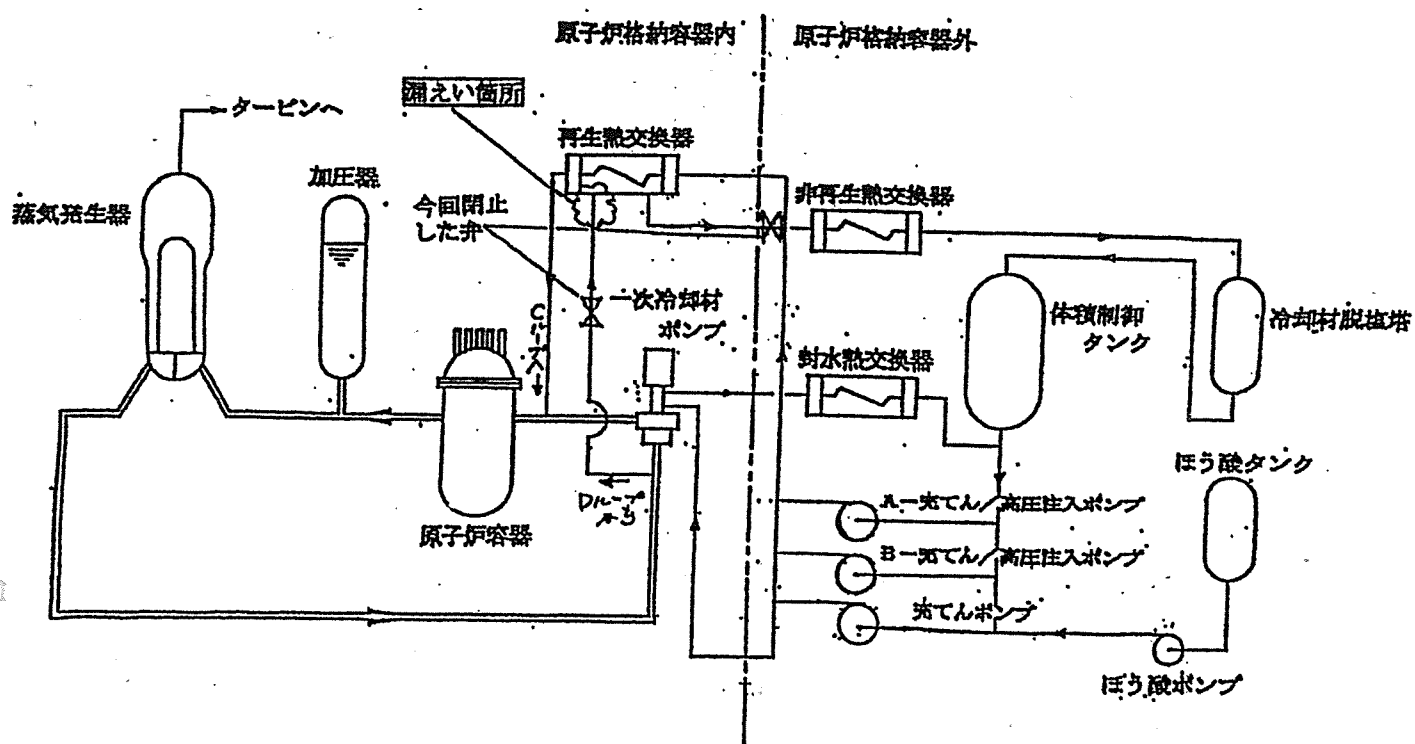
その後、漏えいが確認された化学体積制御系再生熱交換器の抽出側配管部について保温材を取り外し、配管の外観目視点検を行った結果、配管曲がり部で長さ約80mmの割れが確認された。

今後は、漏えいが発生した再生熱交換器室内の清掃・除染作業を実施する予定である。

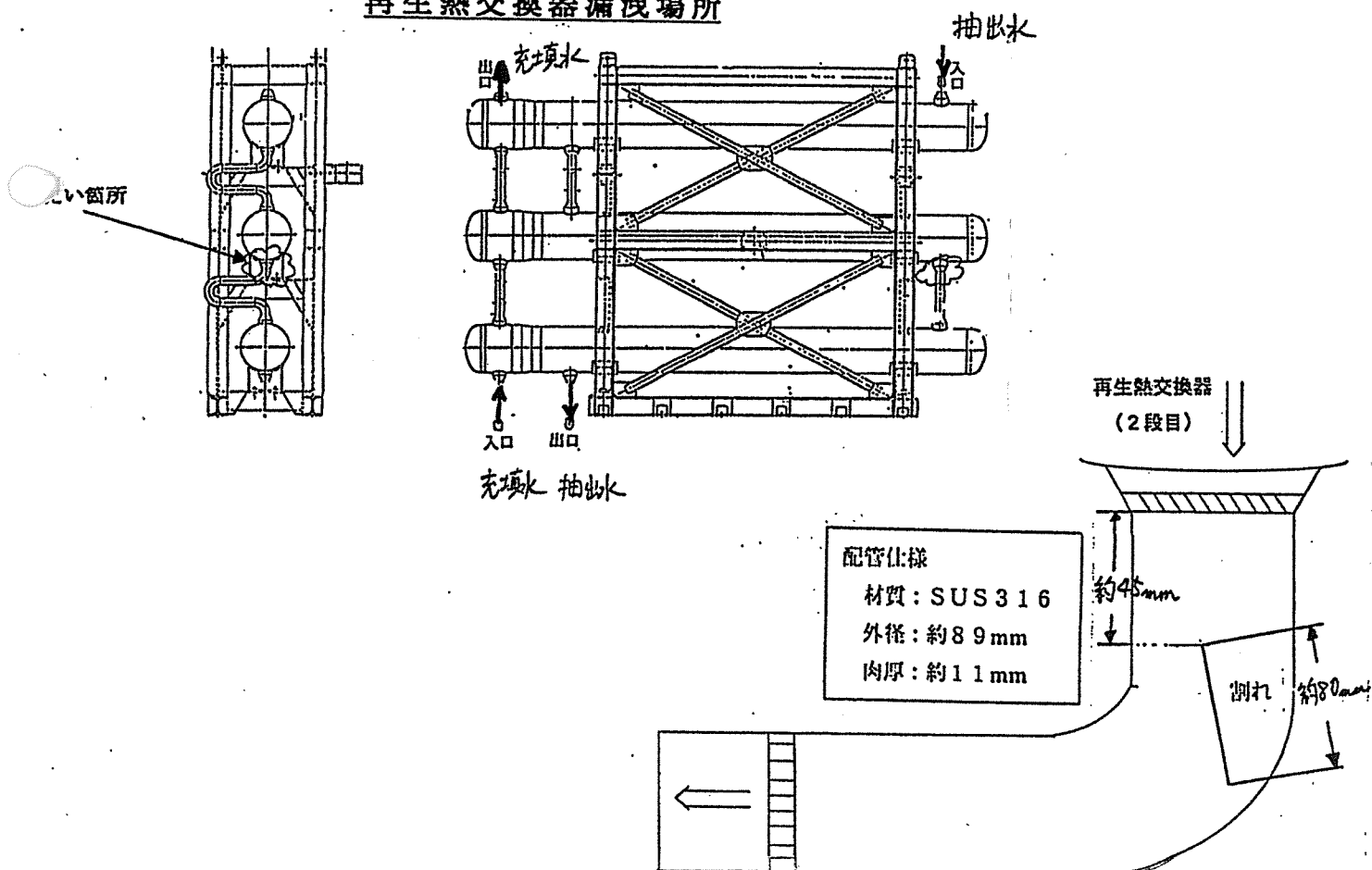
(通商産業省による I N E S の暫定評価尺度)

基準 1	基準 2	基準 3	評価レベル
—	—	1	1

敦賀2号機化学体積制御系概要図

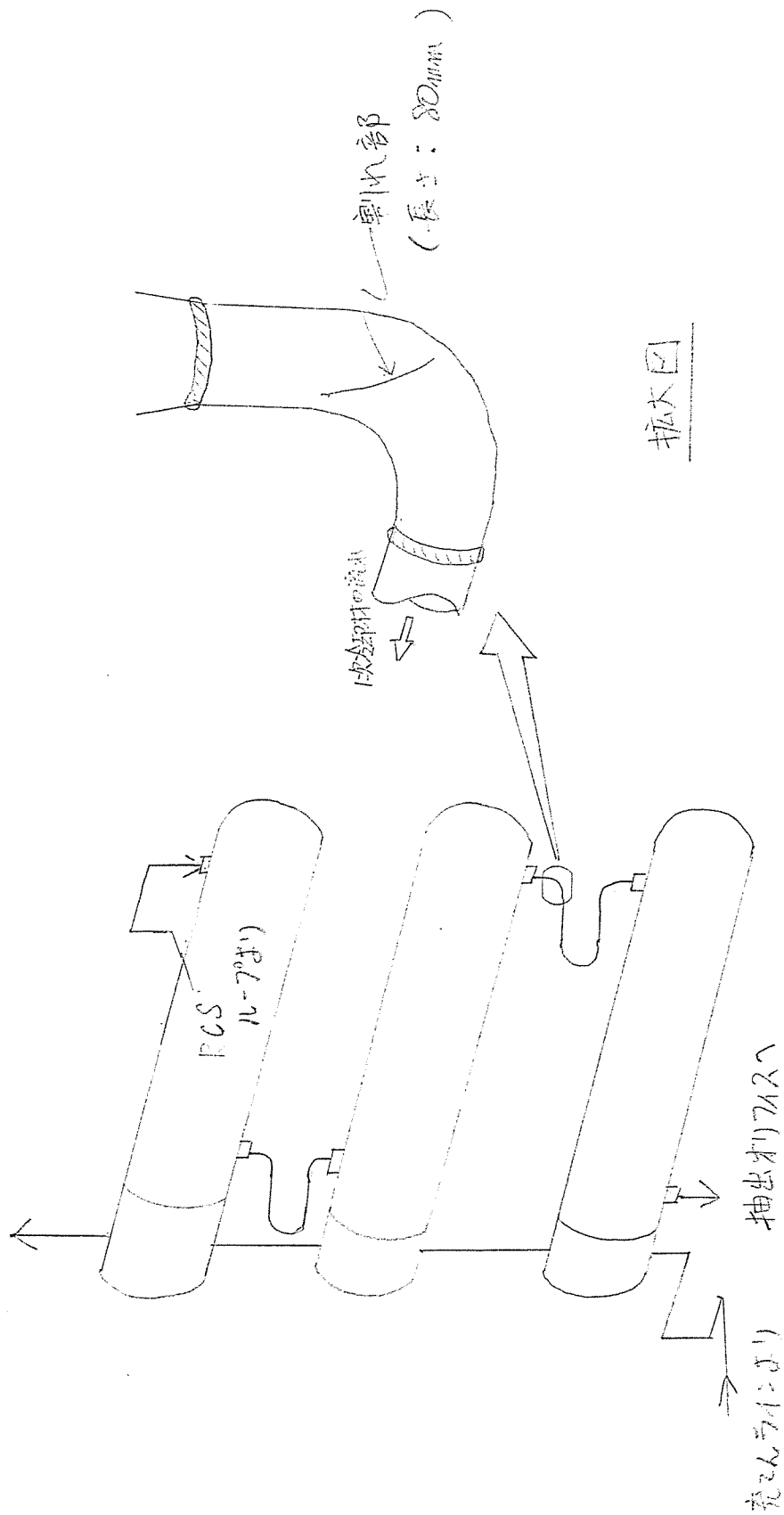


再生熱交換器漏洩場所





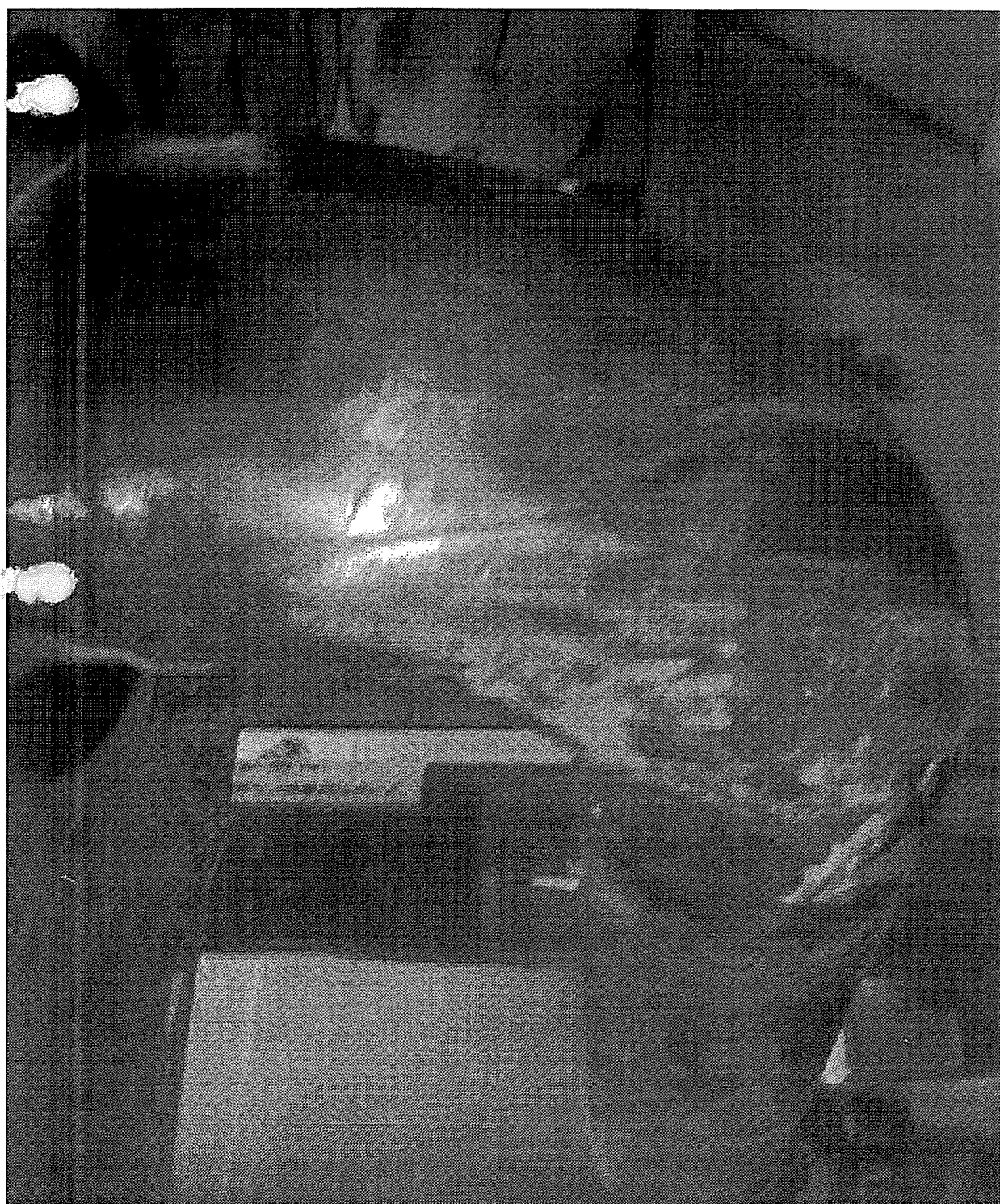
RCS 16-7[°]A



拡大図

再生熱交換器

RCS: 1次冷却材



7/13 10時 原子力安全委員会
配布

日本原子力発電（株）敦賀発電所2号機 の手動停止について

（1次冷却材の漏えい（続報））

平成11年7月13日
資源エネルギー庁

日本原子力発電（株）敦賀発電所2号機（加圧水型、定格出力116万キロワット）は、定格出力にて運転中のところ、平成11年7月12日午前6時05分に原子炉格納容器内のCループ室前通路及びDループ室前通路に設置されている火災報知器が動作するとともに、併せて格納容器内サンプ水位上昇率高を示す警報が発生し、原子炉格納容器内じんあい放射線モニタ等の指示値に上昇が確認された。

このため、点検、調査を実施することとし、同日午前6時24分から出力降下を開始し、同日午前6時48分に原子炉を手動停止した。

なお、外部に対する放射能の影響はない。（7月12日発表済み）

同日午後5時00分に原子炉が冷温停止状態（約93℃）に到達した後、午後6時45分より格納容器内に立入り、点検を実施した結果、午後7時20分頃、化学体積制御系の再生熱交換器近傍の保温材部分から1次冷却材が漏えいしているのを発見した。漏えい箇所については、午後8時16分に系統隔離を実施し、午後8時29分に漏えいの停止を確認した。総漏えい量は目下約89m³と推定されている。なお、格納容器内サンプ及び床面に貯まっている漏えい水については、午後10時00分より液体廃棄物処理系への移送を行っている。

その後、保温材を撤去し、当該部分を点検したところ、本日午前0時00分頃に同再生熱交換器をつなぐ配管表面に約80mmのひびが確認された。

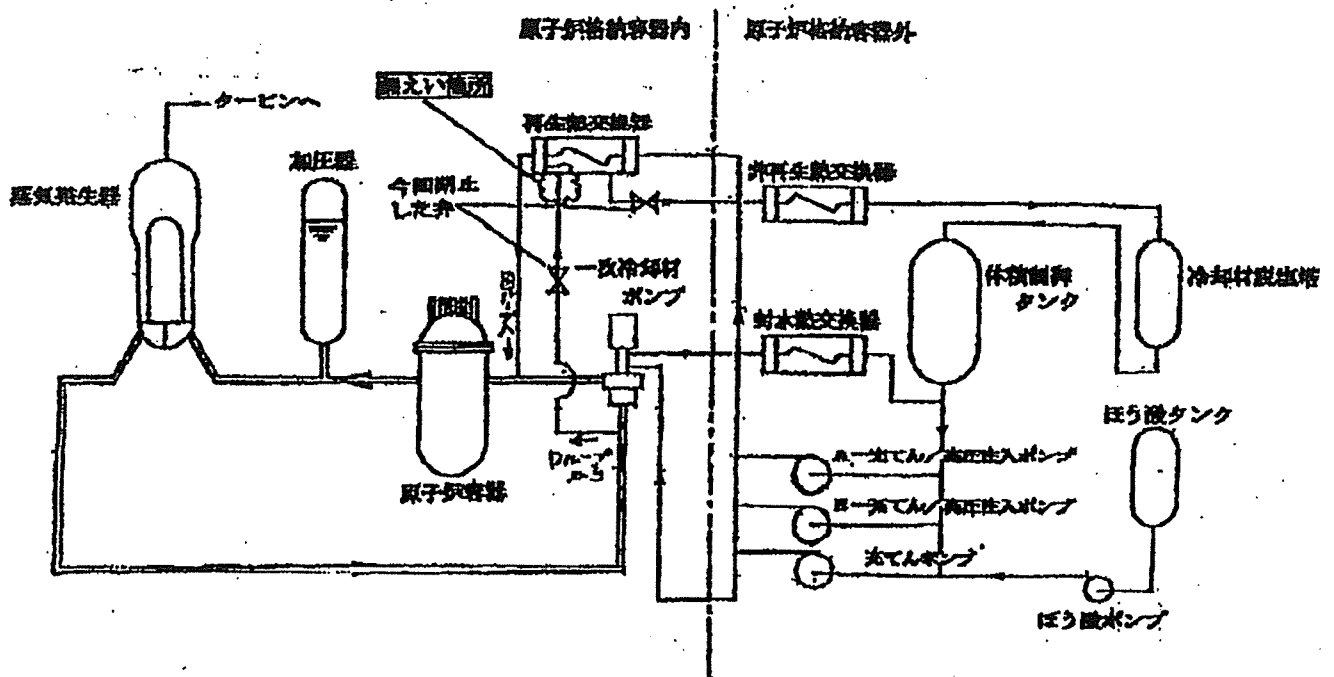
今後、引き続き詳細点検及び原因究明を行う予定である。

（INESによる暫定評価）

基準 1	基準 2	基準 3	評価レベル
—	—	1	1

問合せ先：原子力発電運転管理室
内線3807 直通3501-1739

敦賀2号機化学体積制御系概要図



再生熱交換器漏洩場所

